

国語問題

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この問題冊子は 21 ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 問題冊子および国語解答用紙（マークシート）と国語記述解答用紙が配布された後、各解答用紙の所定欄に座席番号・氏名・フリガナを正確に記入し、国語解答用紙の座席番号欄には座席番号を正しくマークしてください。
4. 解答は必ず国語解答用紙の指定された箇所に正しくマークし、記述式問題の解答は国語記述解答用紙に記述してください。マーク箇所を誤った解答は無効です。
5. マーク解答欄記入上の注意
















- (1) 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書かないでください。例えば、

20

 と表示のある問いに対して、③と解答する場合には、次の例のように**解答番号 20**の**解答欄**の③にマークしてください。

例

良い例	悪い例
	

解答番号	解答欄														
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
20															

- (2) 複数の解答がある場合も、同じ解答欄にマークしてください。ただし、指示された解答数より多くマークした場合は、その解答はすべて不正解となります。
- (3) 解答用紙へのマークはすべて HB のシャープペンシルまたは鉛筆で行い、訂正する場合にはプラスチック製消しゴムで丁寧に消し、消しきずはきれいに取り除いてください。
- (4) 解答用紙は絶対に汚さないでください。また折り曲げたり破ったりしないでください。
- (5) 解答欄の所定欄以外の余白部分は、何も記入しないでください。記入したり、汚したりすると解答用紙読み取り時の誤読の原因となり、採点できない場合があります。
6. 国語記述解答用紙については、注意事項をよく読み、指定された設問について解答しなさい。
7. 試験時間中に退場することはできません。
8. 問題冊子は必ず持ち帰ってください。
9. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。

I 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

『種の起原』が出版されたのは一八五九年だったから、もうすでに一五〇年以上がたつ。ダーウィン進化論の科学理論としての正しさは、その後の研究によって揺るぎないものになっているにもかかわらず、ネット上には進化論はまちがっているという類の記事が満ち溢あふれている。ダーウィン生誕二〇〇周年にあたる二〇〇九年にギャラップ社がおこなった世論調査では、米国では進化論を信じる人は四〇%しかいなかった。もちろん、ダーウィンの唱えた進化論が無む謬びょうであつたわけではなく、いくつかの点で修正されてはいるが、基本的な枠組みは現在でも受け容うけれられている。

進化論はまちがっているとする記事の書き手は、さまざまな理由をあげているが、そのほとんどは反進化論サイトからの引き写しで、自らが『種の起原』を読んだ気配はない。そうしたサイトの多くは原理主義的なキリスト教徒によって運営されているもので、当然のことながら、行き着くところは、こんな複雑なものが自然にできるはずがなく、『聖書』に書かれている通り、生物の種は神がつくつたものにちがいないという結論けつろんになっている。

米国が特殊*1に、キリスト教福音派の影響力が強いという事情もあるが、神が生物の種を創造されたという考え方こそ、ダーウィンが打倒しようとした大きな目標であつたから、こと米国に関しては、ダーウィンがこの本を書いた目的は一五〇年たつてもまだ達成たっせいされていないことになる。

(1) 『種の起原』は、頻繁*2にその名を口にされるにもかかわらず、読み通した人間はほとんどいない本だと言われる。ヴィクトリア時代風の原文がいささか古風で、日本語にしてもすんなり頭に入りにくい。だが、それよりも、誰にも隙をみせないようにという意図いどうだろうが、細部に立ち入つて論証しようとするためにしばしば脇道にそれ、話の本筋が見えにくく、よほど集中して読まないと言旨しやうしが読み取れないからである。私自身もすっかり熟読したことはなかつた。しかしこのたび、現代生物学の視点からこの本をあらためて解説するというデイヴィッド・レズニックの本(原題は『The Origin Then and Now』、みずす書房から刊行予定)を翻訳する機会に恵まれ、彼に導かれて全文に目を通すことになり、いくつかの点で蒙もを啓きかれた。

その一つが、ダーウィンの本書執筆の動機である。「種の起原」というタイトルなのに、種の定義もなければ、中身は種の起原ではなく、進化の話だけではないかという批判は昔からあつた。しかし、この本はまぎれもなく種の起原について論じている。というのは、当時の知識人の圧倒的多数が信じていた、「すべての種を神が一つ一つ別々に創造された」という個別創造説(special creation theory) 直訳して特殊創造説とも呼ば

れる) に対して、異議申し立てをするのが、この本を執筆する主要な動機だったからである。

個別創造説は当時の支配的な自然観であった自然神学(7)のコンカンをなすものである。それは単に『聖書』に書いてあることを盲目的に信じよという素朴なものではない。物理現象を含めた自然の秩序、生物の精巧な体のつくりや驚くような本能といったことのすべてに、神の設計(デザイン)が現れているという主張 (argument from design = 目的論的証明、デザイン論とも訳される) である。啓示や奇蹟(せき)が神の存在の証だとする啓示神学と異なるのは、理性によって神の存在を証明できると考える点である。その代表的な論客はカーライル大聖堂の大執事ウィリアム・ペイリー「1743-1805」で、その主張は名著『自然神学』(一八〇二年) に展開されている。

一九世紀前半の英国で、ニュートンのような物理学者を含めて、ほとんどの科学者は、この自然神学をシンプウ(イ)し、自然の法則を明らかにすれば神の存在を明らかにできるという宗教的信念に衝き動かされて研究していた。ダーウィン自身もペイリーの倫理学や政治哲学の著作から入って、最後にこの本を読んで大きな影響を受けた。ペイリーは自然を美しく調和のとれた平和な世界として描いていた(皮肉なことに、ダーウィンがペイリー説を捨てるきっかけの一つは、彼の娘の死で、世界が平和で調和に満ちてなどいないと実感したことだったとされる)。

その『自然神学』の第一章に、ドーキンス(3)の『盲目の時計職人』という本のタイトルのもととなった有名な一節がある。それは大略次のような主張である。「ヒース(4)の野原を横切っているときに石につまずいて、なぜそこにその石があるかと問われれば、昔からそこにあったのだと答えるだろう。しかし地面に懐中時計が落ちていけば、同じ質問をされたときに石と同じように答えるわけにはいかないだろう。時計をよくみれば、さまざまな部品が巧妙に組み合わされて時を刻むという目的を達成するようにつくられている。そこから、これには時計職人という設計者がいるにちがいないと推論するだろう」。そして、天体の精妙な動きや眼をはじめとする生物の複雑な構造も設計者がいなければありえないもので、その設計者こそ、神であるという結論を導く。ペイリーはあらゆる自然現象についてこの考え方を適用しているが、生物学については、種はすべて、神が一つ一つそれぞれ完璧な状態で創造されたのであり、それが変わることなく現在までつづいているという個別創造説となる。

当時のその影響力は絶大なもので、アダム・セジウィックをはじめ、ダーウィンが学んだケンブリッジ大学の教授陣も、後に盟友となるライエル(6)(地質学)やフッカー(植物学)も個別創造説を信じていた。カール・リンネの分類体系もまた、これにイキヨ(ウ)するものだった。リンネは、生物学者が発見できる種の数は神が最初に創造された種の数と同じになるだろうと述べている。つまり、種は不変だと考えていたのである。そして世界のすべての動植物を記載して一定の秩序のもとに配列することが神から与えられた自分の使命だと信じ、自らの愛弟子たちを辺境への探検旅

行に赴かせた。この「A」こそ、ダーウィンが打倒しようとしていたターゲットだった。

ダーウィンが個別創造説に異を唱えたのは、種は不変ではなく変わるといふ確信からである。それは種が神の創造したものだといふ考えを否定することに成り、それなら種はどこから生じたのが問われる。それに対する答を書いたのが『種の起原』なのであり、この本は「新種の起原」について論じたものなのだ。その答を簡潔に言えば、最初の生命の出現のことは措いて、いったん生命が地上に出現して以後は、その最初の生命が長い時間をかけて変化を積み重ねるうちに、しだいに多様な種が生じるようになったというものである。

ダーウィンがいつ頃から「A」に疑いを持ちはじめたのか確かなことはわからないが、デズモンドとムーアの名著『ダーウィン』によれば、ビーグル号の航海から戻ったのちの一八三七年頃とされている。ガラパゴス諸島から持ち帰った鳥類の同定を依頼していたジョン・グールド「1804-1881」（剥製師・博物学者で、美しい鳥類図譜の作者としても知られる）から、フィンチやマネシツグミが鳥ごとに異なる別種な^{*8}いし変種だといふ報告を受けたのが契機となつたらしい。一つの鳥ごとに種がそれもきわめて近縁な種が個別に創造されるなどといふことは理屈に合わない。ダーウィンは秘かに転成（トランスフォーメーション）説（種が変わるといふ広い意味の進化論）への転向を決意する。その回心下にあつたのは世界を航海して、多様な生物を見たこと、とりわけ「野蛮な」未開人の生活を自分の目で見た体験だった。

ペイリーの説では、人間は万物の霊長として神が人類を同じ一つの種として創造したはずなのに、文明人と異なる未開人の存在をどう説明するのかといふ疑問が生じていた。またこの頃から、多くの化石が発見されはじめ、猿の化石も見つかつていた。種が変遷してきたとしか考えようがない。ダーウィンは秘かに転成論のアイデアを「Bノート」と呼ばれる日記に書きはじめた。

それから、長い歳月をかけて、次項で述べる進化のメカニズムとしての自然淘汰^{*9}という概念にたどりつき（アルフレッド・ラッセル・ウォレスとの同時発見をめぐる騒動が直接の契機となつて）、『種の起原』が執筆される。ダーウィンの目標は、種が変わることを、だれにも有無を言わせぬ形で論証することだった。

考えてもみてほしいのだが、彼の時代にはまだ遺伝学も発生学も生態学も学問としての体をなしていなかった。むしろ逆に、そうした諸分野は『種の起原』以後に発達するのである。したがつてダーウィンが使える科学的な材料は非常に限られたものだった。しかし彼は、現在読んでも色あせないチミツ^(a)さで種が変わることを論証していく。家畜栽培の実践、形態学、個体発生、分類、化石、地理的分布について知られていることはすべて、種は変わるといふ視点から考えれば、ことごとく説明がつき、腑^(b)に落ちることを縷々語っていく。そうした論証を通じて彼がなすとげよ

うとしたもう一つの目標は、ニュートンの万有引力に匹敵するような、生物学の普遍的原理の確立であった。

(垂水雄二『科学はなぜ誤解されるのか』より。出題にあたって本文を一部改変した)

*注1 キリスト教福音派

2 ヴィクトリア時代

プロテスタントの系譜を引くキリスト教の潮流の一つで、聖書の記述を忠実に守り、伝道を重視し、積極的に行動することを旨とする。

3 ドーキンス

イギリスの進化生物学者・動物行動学者。

4 ヒース

イギリス北部、アイルランドなどの平坦な荒地。

5 アダム・セジウィック

イギリスの地質学者。

6 カール・リンネ

スウェーデンの博物学者、生物学者、植物学者。

7 同定

生物の分類学上の所属・名称などを明らかにすること。

8 ファインチ

ここでは、ガラパゴス諸島、ココ島の島々にのみ生息するスズメ目もくフウキンチョウ科に属する小型の鳥類の総称であるダーウィンフィンチ類を指す。

9 マネシツグミ

スズメ目マネシツグミ科に分類される鳥類。

10 アルフレッド・ラッセル・ウォレス

イギリスの博物学者、進化論者。ダーウィンとは別に、生物進化の自然選択という自然淘汰と同様の概念にたどり着き、一八五八年、ダーウィンの説とウォレスの説が同時に発表された。

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)のカタカナは漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つずつ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア) 1

(イ) 2

(ウ) 3

(エ) 4

(解答例) コウケン

- ① 高
- ② 貢
- ③ 工
- ④ 功
- ⑤ 幸
- ⑥ 猷
- ⑦ 権
- ⑧ 堅
- ⑨ 謙
- ⑩ 件

答 ② ⑥

(ア) コンカン

- ① 魂
- ② 今
- ③ 近
- ④ 根
- ⑤ 混
- ⑥ 観
- ⑦ 完
- ⑧ 幹
- ⑨ 間
- ⑩ 卷

(イ) シンポウ

- ① 真
- ② 信
- ③ 心
- ④ 親
- ⑤ 深
- ⑥ 奉
- ⑦ 報
- ⑧ 法
- ⑨ 峰
- ⑩ 邦

(ウ) イキョ

- ① 位
- ② 居
- ③ 衣
- ④ 威
- ⑤ 依
- ⑥ 許
- ⑦ 挙
- ⑧ 拒
- ⑨ 扱
- ⑩ 虚

(エ) チミツ

- ① 知
- ② 致
- ③ 緻
- ④ 智
- ⑤ 治
- ⑥ 蜜
- ⑦ 密
- ⑧ 三
- ⑨ 光
- ⑩ 満

問二 傍線部(a)・(b)の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(a)

(b)

(a) 体をなして

① 姿を現して

② 財産を築いて

③ 形が整って

④ 完璧な状態になって

(b) 腑に落ちる

① 腹の底までしみわたる

② 納得がいく

③ 本質を把握できる

④ 万人が理解できる

問三 本文中の二か所の空欄 A には同じ言葉が入る。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- ① 神の存在
- ② カール・リンネの分類体系
- ③ 種の定義
- ④ 種の不変性

問四 傍線部①「『種の起原』は、頻繁にその名を口にされるにもかかわらず、読み通した人間はほとんどいない本だと言われる」とあるが、それに対して筆者が最も大きな理由と考えているものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- ① 反論を許さないように細部にわたって詳しい論証を行っているため、全体として述べたいことが理解しにくいから
- ② 進化論はまちがっているという類のネット上の記事を読み、『種の起原』の大まかな内容を理解している人が多いから
- ③ 進化論を信じていない人は、まちがった内容である『種の起原』を読んでも意味がないと考えているから
- ④ ヴィクトリア時代風の古風な原文は、他の言語に翻訳すると読みにくい文章になってしまいうから

問五 傍線部②「自然神学」の説明として適切でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- ① 一九世紀前半、英国の多くの自然科学者に強い影響を与えていた。
- ② 自然の法則を明らかにすることで、神の存在を証明できると考えられていた。
- ③ 自然の秩序や生物の複雑な体の構造などは、神が設計したものに違いないと考えられていた。
- ④ 啓示や奇蹟も、それらが科学的に説明されれば、神の設計によることが証明できると考えられていた。

問六 傍線部(3)「種は不変ではなく変わるといふ確信」とあるが、ダーウインがこのような確信を持つようになった理由の一つとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- ① 世界のすべての動植物を記載して一定の秩序のもとに配列することは、実際には困難だということが分かったから
- ② 世界を航海して多様な生物を見たことで、神が創造した種が多様な変化を遂げていることを実感したから
- ③ 個別創造説では、ガラパゴス諸島の鳥類が鳥ごとに異なる別種ないし変種だということを説明することが困難だったから
- ④ 文明人と未開人は、ペイリーの説のように同じ種ではなく、もともと別の種であるという結論に至ったから

問七 ダーウインが、『種の起原』の執筆によって異を唱えようとした個別創造説の具体的な内容を、「神」、「種」、「完璧」、「変化」という語句をすべて用い、国語解答記述用紙に、三十字以上六十字以内(句読点を含む)で記述しなさい。なお、解答の最後は「という説。」で終わること。

				5
				10
				15

60

(この枠は下書き用です。別紙の国語記述解答用紙に記入のこと。)

Ⅱ 次の文章は岡本かの子の「兄妹」という作品である。よく読んで後の設問に答えなさい。

——二十余年前の春

兄は第一^{*1}高等学校の制帽をかぶっていた。上質の久留米^{くるとめ}緋^{がすり}の羽織と着物がきちんと揃っていた。妹は紫矢^{むらさきや}緋^{がすり}の着物に、藤紫^{ふじむらさき}の被布^{ひふ}を着ていた。三月の末、雲雀^{ひばり}が野の彼処^{かしこ}に声を落し、太陽が赫^{あか}く森の向うに残紅をとどめていた。森の樹々は、まだ短くて稚^{おさな}い芽を、ばらばらに立てていた。風がすこし寒くなって来た。

東京市内からコウガイ^(ア)へ来る電車が時々二人の歩く間近に音を立てて走った。電車とは別な道の旧武蔵街道を兄妹は歩いているのだ。妹は電車の出来ない前はコウガイの家の自家用人力車で、女学校の寄宿舎から一人で家へ帰った単純な休暇行路を思い出しながら、自分の寄宿舎に近い第一高等学校の寄宿舎へはいった兄と、今年の春休みには一緒に家へ帰れるのが、楽しかった。もう二里^{*2}も歩いているのだった。すこし疲れて、体がほっと熱ばんで来ているながら袴^{はかま}の裾^{すそ}の処^{ところ}がうすら冷たくずつと下の靴できっちり包んでいる足の先は緊密に温い。道の土がかわいて処女^(イ)のキンセイのとれた体重を程よくうけとめて呉^くれる。二人は、わざと電車に乗らないのだ。歩けるまで春の武蔵野を歩いてみたいのだ。⁽¹⁾

——きみい（君）

と兄は妹へ話す話頭の前にかならず、こう呼びかける。外国文学を読み耽^{ふけ}る兄が外国の小説の会話で一々「ねえ、イヴァン・イヴァノヴィッチ」とか「マドモアゼル・イヴォンヌ、あなたは」とかに馴^なれているせいか、と文学好きな妹は、フランス語の発音に適する兄の美しい男性的な声調に聞き惚^ほれているのだ。だが、兄の語る言葉は、淋^{さび}しくうら悲しい、思春期のなやみに哲学的な懷疑も交っているのだ。

——国木^{*3}独歩は「驚き度^たい」と言い続けながら、あんなにも運命の偶然性、（前に独歩の小説運命論者を兄は妹に言いつて聞かせていた）を恐れているのだ。僕達青年も利那^{*4}主義や自然主義^{*5}に人生の端的を教わりながら、実はその一方に、人生の永遠性を求めて止ま^やまないんだ。地球があつて何万年したら冷えて人類の滅亡が来るとするか僕達の永世をかけての文学と哲学も同時に滅亡することを考えても怖ろしいじゃないか。

……また

——僕達がこうして自然に憧憬^{しやうけい}して此処^{ここ}を歩いているね。僕達は落つる太陽を睨^{にら}み、小鳥の声に聞き惚^ほれ、森を愛し道路を懐^{なつか}しんでさ、そして

口笛を吹いたり君と合唱したりね……こんなに自然を愛して自然に打ち込んでいたって自然は果して僕達を愛しているだろうか、愛しているだろうかよりもむしろ非常に無関心じゃないのかい。今、突然僕が君が此処で倒れたっきりで死んでしまうとするね。その時、あの森の樹の枝の一つだって死んだ僕達のために感動するだろうか。恐らくそのために、あの樹の枝の若葉の一つだって風にビドウする程にも感動しないだろう。(自然が人間に対する無関心はツルゲニエフの獵人日記中、森で樵夫が倒れ、大木の下積みになりその大木が樵夫を殺す作を見てから兄が一層痛感しているのであった。)

だが、妹はまだ稚かった。兄の語る言葉の内容を兄と同程度に懷疑し悲哀に感じつくすにはまだあまり稚い乙女であった。愛する兄の悲哀や懷疑になやむ姿がただただいたましく悲しかった。兄妹の行き着くべき大家族の家の近くに武蔵野を一劃する大河が流れていた。日は落ち果てて対岸の燈が薄暮の甘いアイシユウを含んでまばらにまたたいている。

君。ちよつと休んで行こうよ。

兄は道路からすこし入った疎林の樹の根に腰かけて今一つの樹の切り株を妹に指し示した。妹は素直にハンカチを敷いて坐った。兄は袂から真白なものを一本取り出し指先でしゃりしゃり一端を揉み始めた。

— あら、兄様、タバコ吸い始めたの。

— ああ。

兄は、まだ稚気の抜け切らぬ愛らしく淋しい青年の顔を妹の方へ向けて笑った。

正午、日は (X) 桃花畑に照り渡り、烟り拡がっているのであった。兄は妹と長い堤を歩いて居た。

向うから、目鼻立ちのよく整い切った色白の村娘が来た。乙女は (Y) 兄妹に頭を下げて恥ずかしそうに行き過ぎた。メリンスの帯が桃の花とタイシヨウしてその娘を一そう可憐に美しく見せた。

— あれだろう、君のお付きになるのは。

— ええ、あれ、どう？

— いい娘ってんだらうなあ。

好い娘過ぎて「お米」は村で使い手が無かった。家の娘より美しい娘は負け惜しみの強い都会近在のこの土地では使い方がなかった。兄妹の母

親はそれを選んで女学校卒業期に近い妹のため「お米」をおつきにすることにした。「お米」は近郷一の高位の令嬢のお付きになる光栄の日を待っているのであった。それが偶然途中で逢って口も利けない程恥ずかしくうれしかった。

—あのね、兄様、お母さんがね、お米は美しいけど……

—なにさ。

—お前には、ずっとお米より「くらい」が見えるんだから、ひけめをかんじてはいけないよって……

(3) ああ、そうだとも君。

兄は内気ながら凜とした処のある妹のあまり整っていないくとも、眼と額の際だって美しい妹の顔を振り返った。

(出題にあたって本文を一部改変した)

*注1 第一高等学校

旧制高等学校の一つ。第一高等学校は帝国大学の予科と位置付けられ、三年間の修学年限が終わると、卒業生の多くは帝国大学に入学した。

2 二里 尺貫法における距離の単位。二里は約八キロメートル。

3 国木田独歩 一八七一—一九〇八年。小説家、詩人。文中の「「驚き度い」と言い続けながら」は、独歩の短編小説「牛肉と馬鈴薯」にある主人公岡本のセリフ。友人たちが現実主義と理想主義、どちらを取るべきか論じているなかで、岡本は自分の願いは驚くことだと述べたことを指す。

4 利那主義 過去や将来も考えず、その時の感情のままに生きようとする事。

5 自然主義 文学においては現実を理想化せずに、ありのままに描こうとする立場。

6 ツルゲニエフ イワン・ツルゲーネフ(一八一八—一八八三年)。ロシアの作家。代表作に『父と子』(一八六二年)がある。

7 メリンス 毛織物の一つ。羊毛などの梳毛糸を平織りにしたもの。

8 お付き 身分の高い人のそばにいて、その用をする人。

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)・(オ)のカタカナ部分は漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせになるように漢字を二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア) 11

(イ) 12

(ウ) 13

(エ) 14

(オ) 15

(解答例) トクテイ

- ① 得
- ② 徳
- ③ 特
- ④ 読
- ⑤ 督
- ⑥ 帝
- ⑦ 定
- ⑧ 低
- ⑨ 訂
- ⑩ 呈

答 ③ ⑦

(ア) コウガイ

- ① 郊
- ② 交
- ③ 功
- ④ 向
- ⑤ 考
- ⑥ 害
- ⑦ 外
- ⑧ 該
- ⑨ 街
- ⑩ 概

(イ) キンセイ

- ① 禁
- ② 緊
- ③ 勤
- ④ 均
- ⑤ 近
- ⑥ 性
- ⑦ 正
- ⑧ 生
- ⑨ 制
- ⑩ 整

(ウ) ビドウ

- ① 美
- ② 微
- ③ 備
- ④ 鼻
- ⑤ 眉
- ⑥ 同
- ⑦ 動
- ⑧ 道
- ⑨ 働
- ⑩ 導

(エ) アイシユウ

- ① 相
- ② 愛
- ③ 哀
- ④ 挨
- ⑤ 藍
- ⑥ 周
- ⑦ 囚
- ⑧ 愁
- ⑨ 醜
- ⑩ 酬

(オ) タイシヨウ

- ① 貸
- ② 待
- ③ 袋
- ④ 替
- ⑤ 対
- ⑥ 紹
- ⑦ 少
- ⑧ 消
- ⑨ 照
- ⑩ 証

問二 傍線部(a)・(b)の本文中における意味として、最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(a) 16

(b) 17

(a) 痛感して

① つらい感覚を覚えて

② はっと感心して

③ 苦々しい反感を持って

④ 身にしみてそう感じて

(b) 負け惜しみ

① 見栄を張って散財すること

② 負けや失敗を認めず強情を張ること

③ 相手を安く見積もって見下すこと

④ 貴重なものを大事に扱うこと

問三 空欄(X)・(Y)に入る最も適切な表現を、それぞれ①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(X) 18

(Y) 19

(X) ① うらうらと

② つらつらと

③ ろうろうと

④ ひょうひょうと

(Y) ① あらあらしく

② かがいしく

③ うやうやしく

④ なまなましく

問四 傍線部(1)「歩けるまで春の武蔵野を歩いてみたいのだ」とあるが、この時の妹の心情はどのようなものか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

① 兄が抱える苦悩を察し、できるだけ一緒にいて寄り添ってあげたいと思っている。

② 敬愛する兄と一緒に実家まで歩いて帰るのがうれしく、歩くことを心地よく感じている。

③ 思いがけず兄と近い寄宿舎になったことで、帰省の道連れができたことをうれしく思っている。

④ かつて自家用人力車で実家に帰ったことが悔しく、自分の足で帰ることができることを証明したいと考えている。

⑤ 兄の話は人間の思想の茫漠ぼくとした広がりを示しており、歩くという行為でそうした広がりを超破できるように思っている。

問五 傍線部②「愛する兄の悲哀や懐疑になやむ姿」とあるが、兄のどのような様子や姿を指すのか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

- ① 自然に決して愛されない事実を受け入れたいと反発する様子と、永遠性への憧れは費えることはないのではないかと疑念を持つ姿
- ② 新たなお付きの娘が妹より美しい事実を悲しく眺めざるをえないという寂しげな様子と、自然が自分たちに対して無関心であることに憤る姿
- ③ 滅びる人間の運命に抗^{あらが}おうと無駄骨を折る様子と、自然を愛しているように振舞うことは、実は人間に対する愛の裏返しではないかといふかしく思う姿
- ④ 人間が存在した証がやがて失われるだろうことに絶望した様子と、自然を愛しているように振舞っても、それが自然には伝わっていないことを悲嘆する姿
- ⑤ 永遠性を求めつつも運命には抗えないことをうら悲しく思う様子と、自然に近づこうとするも自然からは愛されてはいないのでないかと疑う姿

問六 傍線部(3)「ああ、そうだとも君」とあるが、兄はどのようなつもりでこう言ったのか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

22

- ① お米と妹は身分が違うために比べようがないと思いつつ、お米の美しさは認めないではいられないことを隠そうとしている。
- ② 身分が高いことの意義を説いた母の話を伝える妹の複雑な心情を察し、お付きよりも美しくない妹に対し、兄としてその人柄や美しさを認めてあげようとしている。
- ③ 美しいにもかかわらず、妹のお付きになることを光栄にとらえているお米の様子から、身分の違いは人の価値に大きく関わることを妹に納得させようとしている。
- ④ 人間の本質は矛盾を抱えているという悲しい事実を認めつつも、美醜を超えた高位の存在としての人間のありようを説く母の言葉に、共感を表明しようとしている。
- ⑤ 妹がお米より美しくなくても、兄の目から見るとそれなりに際立ったところがある点を評価してやることで、お米がわきまえているのは自然だと伝えようとしている。

問七 この文章の特徴に関する説明として適切なものを、次の①～⑥の中から二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

23

- ① 一高と女学校で過ごし成長しつつあるが、それでいてまだ幼さが残る兄妹の、心を許した者同士のやりとりを淡々と描いている。
- ② 「君」と呼びかける兄を密かに慕う妹の思いは、美しいお付きの娘の登場によって終わりを告げるかに見えたが、兄の言葉によって救われるという、逆転のドラマが描かれている。
- ③ 永遠性や美を追求し、苦悩する兄に対し、美しくないことにひきめを感じている妹を描き、二人の乗り越え難い心の隔たりと、その互いの孤独を乗り越えようとする兄妹の回復の物語が語られている。
- ④ 思春期特有の懐疑主義にふける男性と、現実的であっけらかんとした女性が登場することで、立脚点が異なる両性のバランスで世の中が成立しているという偶然性を描こうとしている。
- ⑤ 様々な思想や考えにふれ、人生に対する悩みや疑念を持つようになった兄と、そうした兄を理解したいと思いつつも、そのような成熟に至っていない妹がコントラストで描かれながらも、会話を通じて両者の親密な関係が浮き彫りにされている。
- ⑥ 上等な着物、寄宿舎生活、自家用人力車、外国の小説、哲学的逡巡などを作中にちりばめ、将来が約束されたエリート層の若者を描きながら、喫煙や美しい娘を登場させることで、その未来に暗雲が立ち込めていることを予感させている。

Ⅲ 以下のそれぞれの設問に答えなさい。

問一 次の傍線部の漢字が正しいものを、①～⑩の中から二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

24

- ① 法の基の平等を貴ぶ。
- ② 道路交通法を侵した。
- ③ 司法試験に主席で合格した。
- ④ 絶大な権力をもって国を治める。
- ⑤ 懲役刑を課す。
- ⑥ 不治の病を煩う。
- ⑦ 遺伝子が変位した。
- ⑧ 痛みに耐えられない。
- ⑨ のどが乾く。
- ⑩ 内蔵脂肪が多い。

問二 次の(1)～(3)の四字熟語の空欄に入る漢字と、選択肢傍線部のカタカナの漢字が同じになる文を、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 25

(2) 26

(3) 27

(1) 晴 雨読

① 夕食の食材を買いにイ_ク。

② 新幹線に乗って東京観_{コウ}に出かける。

③ 庭をタガヤして家庭菜園を始める。

④ 健_{コウ}に気を付ける。

(2) 疑_ウ心暗

① オニ退治に出発する。

② 文化祭の出し物のキ_カ画書を作成する。

③ 旅の無事をイ_ノる。

④ ウ_エと貧困は世界の最重要課題だ。

(3) 傍_{ホウ}若無

① ハナハだ僭_{せん}越ながら、私からご挨拶_{せんご}申し上げます。

② 特殊詐欺グループを一網打_ヒジンにする。

③ 初詣で、ジ_ン社に行った。

④ 町おこしには若いヒ_トの力が必要だ。

問三 次の文の傍線部の語句が適切に使用されているものを、①～⑧の中から二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

- ① 秀才の烙印を押された。
- ② 主役なんて私には役不足だ。
- ③ 敵に煮え湯を飲まされた。
- ④ 幸運が重なりこの計画は流れに棹さして順調だ。
- ⑤ 自分のことは棚上げて人を批判する。
- ⑥ 悲惨な事件を聞いて失笑した。
- ⑦ 彼とは気が置けない友人として長年付き合っている。
- ⑧ 意見が煮詰まったので最初から考える。

問四 次の(1)～(3)の成句の意味として、最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1)

(2)

(3)

(1) 「言わぬが花」

- ① 文句があっても我慢するということ
- ② 言わない方が趣があるということ
- ③ 何も言わなくても伝わるとのこと
- ④ あえて言わなくても花はきれいであるということ

(2) 「コロンブスの卵」

- ① 簡単にできそうに見えても、最初に行くのは難しいということ
- ② 遠くまで行かないと、良いものを得られないということ
- ③ 苦労して得たものは、将来性があるということ
- ④ 冒険家が成し遂げたことは、必ず後継者が出るとのこと

(3) 「暖簾のれんに腕押し」

- ① 柔らかい暖簾も腕で押さないと危険であるということ
- ② 入り口は慎重に入った方がいいということ
- ③ 少しでも手応えがないということ
- ④ 心にとめて忘れないこと